

2021年度(令和3年度)学校評価自己評価表

城北中学校区	校番 63	福山市立明王台小学校
最終更新日	2021年(令和3年)4月1日	

I 福山市

ミッション 福山に愛着と誇りを持ち、変化の激しい社会をたくましく生きる子どもを育てる。
ビジョン 「福山100NEN教育」の基本理念のもと、各中学校区・学校が「21世紀型“スキル&倫理観”」の育成に向けた特色ある教育課程を編成し、日々の授業を中心として評価・改善を進めながら、子どもたちの確かな学びを実現している。

II 中学校区

前年度学校関係者評価の主な内容 学校関係者評価報告書は全項目「十分満足できる」と評価された。中学校校区で連携を深め、共通の取組で成果をあげている。各校の目標が達成できていないものについては取組の進捗状況を細かく把握し課題克服に向けてPDCAサイクルに則り実践する。	児童生徒の現状 学びの伸びを図る調査の結果、小学校・中学校ともに福山市の平均正答率を上回った。また、長欠未然防止に向けて、現状や対策を話し合うことで今年度の新規長欠児童生徒は減少した。さらに、メディアウィークを設定することで、メディアとの付き合い方や利用の仕方について効果があった。	育成する力 21世紀型“スキル&倫理観” めざす子ども像 (義務教育修了時の姿) 中学校区として統一した取組等
		知識・技能 思考力・判断力・表現力 主体的に学ぶ力 他者とかかわる力 社会貢献力 自己形成力 自ら考え、判断し、行動する児童・生徒 ・校区合同研修における、合意形成を意識した授業研究及び教科等部会の取組 ・ICTを活用した授業実践及び協議・交流の取組 ・家庭での効率的な学習計画の立て方・メディアとの付き合い方への取組 ・合同行事や乗り入れ授業、「総合的な学習の時間」交流会の取組

III 自校

ミッション 夢を持ち その夢を実現することを通して 社会に貢献できる 児童の育成	育成する力 21世紀型“スキル&倫理観”	主体的に学ぶ力	思考力	表現力	他者と関わる力
学校教育目標 自ら学び 豊かな心で たくましく生きる子どもの育成	めざす子ども像	生活体験や既習事項を基に、調べたり考えたりするなど、継続して新たな課題を見つけようとしている。	より良い解決に向け、目的や意図に心理論理的に考えよ。	必要な情報を整理し、論理的に話したり書いたりするなどして、自分の考えを表現しようとしている。	初めて出会う考えにも耳を傾け、目標達成に向けて、共感しながら互いに学び合おうとしている。
現状 <児童生徒> ・標準学力調査では、全国平均を上回った。 ・学校のルールを守る児童が増加し規範意識が高まった。 ・「無言掃除」「地域行事への参加」等、主体的に考え行動できる力を高めていく必要がある。 <授業> ・「授業では、自分の考えとその理由を明らかにして、相手に分かりやすく伝えるように発表を工夫している」児童の割合(「基礎・基本」定着状況調査アンケート)が、77.8%(県66.6%)である。今後も自分の考えをまとめて書くこと、考えを練り合い深めていくことに継続して取り組んでいく必要がある。	研究	教科等 社会科 外国語活動	主題・内容等 コミュニケーション能力を養う授業の創造 ～主体的な学びをつくる授業づくり～		
	めざす授業の姿	・社会的事象(具体的な事実)をじっくりと見つめさせ、問い(問題意識)をもたせることができています ・児童が自ら考え、友だちと関わり合いながら課題を解決する場面を設定することができています ・自信をもって発話できるような活動を取り入れることができています ・学習したことを生かすことができる場面設定を行うことができています ・児童の実生活や興味関心に関係した場面設定を行うことができています			

IV 目標・取組及び評価指標等の設定と評価

福山市立明王台小学校

年 目	中期経営目標	重 点	分 類	短期経営目標	目標達成に 向けた取組	評価指標	中間評価(10月1日)			最終評価(2月末)						
							□指標に係る 取組状況	加 点 評 価	達 成 評 価	改善方策	□指標に係る 取組状況 ◎短期(中期)経営 目標の達成状況	加 点 評 価	達 成 評 価	総 合 評 価	改善方策	
1	自ら考え学 ぶ児童(主体 性)の育成	★	新規	「学びが面白い」 授業の創造	<ul style="list-style-type: none"> ・帯タイム(スキ ルタイム)に漢 字・言葉・計算 問題に取り組 む。 ・ICT等を活用し て、意見交流を 行う 	<ul style="list-style-type: none"> ・国語・算数の単 元テストの通 過率を、知識・ 技能90% 思考・判断・表 現 国語9 0% 算数 80% ・ICT等を活用し て、友だちと意 見を伝え合う ことができる 児童評価8 0% 教師評 価70%に する。 										
			★	継続	進んで掃除をす ることができる 児童にする。	縦割り班掃除を実 施する。	・プラス1掃除が できる児童を 95%以上にす る。									
				新規	自ら目標を立て、 その目標を守る ことができる児 童にする。	・メディアの時間 を守ることの意 義を伝え、時間 のルールや守り方 を家庭と連携し て決めていく。メ ディアウィーク を実施し、きめた 目標を児童自ら 守っていくよう 促していく。	・メディアウィー ク中に自分が決め ためあてを達成し た児童を70%に する。									
				新規	主体的に体力づ くりができる児 童にする	・年3回の体力向 上月間を実施す る。 ・「外遊びデー」	・児童アンケート。 ①「自己目標に向か って進んで体力づ くりに取り組みだ									

				を月2回以上実施する。	児童80%以上。 ②「楽しんで外遊びに参加することができた」児童90%以上。														
1	教員の資質・能力の向上	★	新規	自ら考え学ぶ授業を創造する。	<ul style="list-style-type: none"> •つけたい力を明確にした授業実践を行い、協議を行う。 •ICTを活用した授業を実践する。 	<ul style="list-style-type: none"> •各学年、単元計画を立て授業実践を行う。(研究授業を年2回以上) •複数教科でICTを活用した授業を行える教員を100%にする。 													
1	地域に貢献する学校		新規	積極的に地域の人やボランティアの人と関わろうとすることができる児童にする。	<ul style="list-style-type: none"> •児童会からの生活目標で地域の人にあいさつを設定する。 •地域の人やボランティアの人の活動を紹介していく。 	<ul style="list-style-type: none"> •保護者・児童アンケートで「地域の人やボランティアの人にあいさつができる」児童を70%以上にする。 													

[プロセス評価の評価基準]		[達成評価の評価基準]		[総合評価の評価基準]		
評点	評価基準	評点	評価基準	評点	評価基準	
5	取組の目的に対する共通理解が顕著に認められ、状況の変化、問題が生じた際は、協同的な課題解決が十分に図られた。	5	目標を大幅に達成し、十分な成果をあげた。	5	100%以上の達成度	十分に目標を達成できた。
4	取組の目的に対する共通理解が認められ、状況の変化、問題が生じた際は、協同的な課題解決が概ね図られた。	4	目標を概ね達成し、望ましい成果をあげた。	4	80%以上100%未満の達成度	概ね目標を達成できた。
3	取組の目的に対する共通理解が一定程度認められ、状況の変化、問題が生じた際は、協同的な課題解決がある程度図られた。	3	目標をある程度達成し、一定の成果をあげた。	3	60%以上80%未満の達成度	ある程度目標を達成できた。
2	取組の目的に対する共通理解が認められ難く、状況の変化、問題が生じた際の協同的な課題解決があまり図られなかった。	2	目標を下回り、成果よりも課題が多かった。	2	40%以上60%未満の達成度	あまり目標を達成できなかった。
1	取組の目的に対する共通理解が認められず、状況の変化、問題が生じた際の協同的な課題解決が図られなかった。	1	目標を大きく下回り、成果が認められなかった。	1	40%未満の達成度	目標を達成できなかった。